

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会 新会長就任挨拶

(平成30年6月12日懇親会挨拶より)



新会長 北野 亮

ただいまご紹介をいただきました通り、本日の臨時理事会におきまして会長の重責を拝命いたしました 北野でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日は、公務ご多忙にもかかわらず、経済産業省 製造産業局長 多田明弘様、国土交通省 住宅局 住宅生産課長 長谷川貴彦様はじめ、関係省庁の皆様、並びに当協会に関係の深い諸団体、報道関係の皆様にも多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。

また、会員企業・団体の皆様方におかれましては当協会の運営に日頃より多大なご尽力を賜っておりますことを、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

それではまず始めに、前方のスクリーンにて今年度の新役員体制をご報告致します。

前会長の石村和彦様には、当協会の事業推進に多大なるご尽力を賜りました。誠にありがとうございました。石村様には副会長にご就任いただきましたので、引き続きよろしくお願致します。

新任副会長として、張本邦雄様、山下清胤様に、そして新任監事には、玉田保浩様にご就任いただきました。

また、理事につきましてもご覧いただいておりますように、3名の方が交代されておりますので、ご報告申し上げます。

なお、退任されました前副会長の柳川匡史様をはじめ、前理事の皆様には、当協会の運営に対して長年に亘り格段のご尽力、ご貢献をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、平成29年度を振り返りますと、新設住宅着工戸数は94.6万戸で、前年比97.2%となりました。今年度も市況は弱含みが見込まれますが、問題はその後です。皆様ご承知の通り、2030年には60万戸を下回るという予測が多く出されています。一方で、リフォーム需要は今後も堅調に推移すると言われており、リフォーム市場の活性化が今後益々重要となっております。

このような状況の中、政府は「Society5.0」の実現に向けた改革のため、その行動計画となる「未来投資戦略2017」を策定し、住まいに関する課題への継続的な取り組みを、一層加速させることが表明されました。

さらに経済産業省から、Society5.0につながる「Connected Industries」実現のために、スマートホーム市場の創出に向けた具体的政策の方向性が示されました。これにより、住宅・建材分野にとどまらず、情報やサービスなどあらゆるモノが結びつくIoT住宅の開発に拍車がかかることと

なりました。昨年度、当協会に「IoT 住宅研究会」を発足しましたのもこの流れに則ったものです。今年度からは、当協会の標準化委員会の中に「IoT 住宅研究部会」として新たに位置付け、IoT 住宅に設置される設備機器の「機能安全規格の標準化」への取り組みを更に強化してまいります。

また IoT 住宅に加え、ZEH の普及促進も国の大きな事業です。今年度からは ZEH の普及促進事業は、経済産業省、国土交通省、環境省の三省連携で進められることになっております。

当協会は、このような国の方針を踏まえ、今年度は 3 つの重点課題に取り組んでまいります。

1 つ目は、リフォーム推進事業です。

今年度、新提案として「住宅の燃費」という考え方の普及に取り組んでまいります。これは、住宅を最新仕様にリフォームした場合の、水道代も含めたトータルエネルギー費の削減効果をより分かりやすく表したもので、リフォーム喚起の新たなツールとして広めてまいります。

2 つ目は、日本規格協会を通じての経済産業省からの受託事業である標準化事業です。

受託契約 2 年目を迎える「グリーン建材・設備製品に関する国際標準化事業」は、今年度中に国際規格の発行 1 件、国際規格案への移行 1 件の実現を目指します。

また、アセアン展開については、ベトナムとインドネシアでの国家規格の完成・発行までのフォローアップと新たな候補国への新規展開も進めてまいります。

3 つ目は、「カタラボ」を中心とした情報提供サービスです。

カタラボは、機能改善と PR 活動の効果もあり、ページビューは 7,000 万回／月を超え、掲載カタログ数も 2,300 冊を超えるなど順調に規模拡大しております。後ほど事務局より紹介をさせていただきますが、2009 年開設後初めて、デザインの全面リニューアルを予定しております。利便性の向上を図り、業界トップクラスの電子カタログ検索システムへ進化を続けてまいります。

これら 3 つの重点課題以外に、優良断熱材認証活動やクリーンウッド法対応、VOC 表示審査・調湿建材表示事業につきましても、将来の業界動向を見据えた重要な活動と位置づけ、鋭意展開をしてまいります。

当協会は、今年度も業界・団体のさらなる発展に貢献してまいり所存でございます。引き続き、皆様のご支援・ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

結びにあたりまして、本日ご参加いただきました皆様のご健勝と団体並びに企業各位の更なるご繁栄を祈念いたしまして私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。